

## これまでの議論のまとめ

### 1. 現状と課題

---

#### 1-1 茅ヶ崎市都市づくりの経緯

- 四季を通じて温暖な気候や海と緑豊かな丘陵等恵まれた自然もあり、明治から昭和初期にかけて湘南の別荘地、保養地として発展してきました。
- その後、都心部への交通の利便性や恵まれた自然環境もあり、高度経済成長期に一気に住宅都市として発展し、人口も増加してきました。
- 茅ヶ崎市では、これらの背景をもとに「湘南の快適環境都市 ～みんなでつくる 住み続けたいまち ちがさき～」の実現を目指しつつ、約 24 万人の住宅都市へと成長してきました。

#### 1-2 茅ヶ崎市の現況・課題と将来展望

- 日本全体がこれまで経験したことがない人口減少、高齢社会へ突入し、都市をとりまく環境も大きく変化しつつあります。また、市民生活に大きく影響を与える社会・経済状況も日々変化しつつあります。
- そこで、茅ヶ崎市における展望を予測し、課題と今後の方向性を整理しました。

##### (1) 人口の減少、世帯数の増加により…

- 平成 32 年をピークに人口が減少していきます。今後、労働力の減少、税収減少等、都市活力への影響が懸念されます。
- さらに、高齢者の単身世帯の増加や人口減少等に伴い、空き家や未利用地等の増加により、住環境の低下、公共交通維持の困難等が予測されます。
- もともとコンパクトに、また比較的人口密度が高く市街地が形成されている中で、人口密度の低下を好機と捉え、より快適な住環境を形成していくことが重要となります。
- また、都市拠点の現状では、茅ヶ崎駅（北茅ヶ崎駅を含む）、浜見平は施設が多く立地していますが、辻堂駅や香川駅周辺は施設が少ないのが現状です。今後、高齢社会、環境負荷低減等の観点から、より都市拠点の役割や重要性が高まっていく中で、都市拠点のにぎわいの維持・向上も必要となります。
- さらに、高齢者の暮らしを支える取り組みが、都市整備の面から必要となります。

##### (2) 超高齢社会・少子化の進展により…

- 市全域で高齢化が進展し、高齢者が増加する中で、住宅都市である茅ヶ崎市では、昼間人口の増加が予測されます。高齢化に伴う日常の身体活動量の減少と外出機会の低下が懸念される中、心身の健康の確保への取り組みが必要となります。
- 都市にある様々な資源を活用しつつ、高齢者の活躍の場の創出、また外出機会を維持していくためにも、公共交通機関を維持し、外出先までの足を確保していくことも重要となります。

- 少子化が進展する中、安定的な年齢階層別の人口を確保していくためにも、子育て環境の整備が必要となります。

### **(3) 広域連携、交流のポテンシャル向上により…**

- 広域的に道路ネットワークの整備が進展し、さがみ縦貫道路の全面開通により、栃木等から湘南地域（藤沢方面）への交通量（来街者）が増加しています。
- 近隣市に比べて観光客誘引力が低い中、広域的なポテンシャルの向上とともに、道の駅の整備を契機と捉えながら、良好な住環境の保全に配慮しつつ、活力向上の視点から都市づくりが必要となります。
- 交流人口の拡大もさることながら、あわせて「活力を創出し生活を支える」という視点から拠点形成に向けた取組が重要であるとともに、拠点間を結ぶネットワークの充実を図る必要があります。

### **(4) 都市の安全性に対する意識の高まりにより…**

- 大規模地震が発生した際、延焼拡大や緊急輸送路等の沿道建物の倒壊や道路の劣化に伴う閉塞等が予測されます。また、近年の気候変動により、河川の氾濫や洪水による浸水被害が想定されます。
- 人口減少にかかわらず、将来においても相当数の人口がハザード地域内に居住しているとともに、ハザード地域内の65歳以上人口も増加していきます。
- 引き続き、自助・共助・公助の役割分担のもとに防災・減災対策の推進が必要となります。

### **(5) 厳しさを増す財政状況により…**

- 人口の減少により労働力の減少、税収減少やインフラの老朽化への対応、都市防災力の強化も求められる中で、ますます財政状況の厳しさが予測されます。また、今後、公債費とともに、高齢者人口の増加による医療費等の社会保障関連経費の増加が予測され、投資的経費に充てられる財源は限られてきます。こうした状況の中、過去に整備されたインフラ等が更新時期を迎え、その対応が必要となります。

### **(6) 価値観・ライフスタイルの変化、多様化により…**

- 個人の価値観に対応した暮らし方、働き方、地域社会とのかかわり方が多様化する中で、多様な世代がライフステージに応じて、健康で快適に生活をおくることのできる環境づくりが求められます。

### 1-3 都市づくりの広域的視点

- 茅ヶ崎市を含む広域圏である神奈川県において、今後の茅ヶ崎市に対する位置づけや展望、また、茅ヶ崎市に期待する役割等を以下に整理します。

#### (1) 都市イメージ

- 「神奈川力構想（平成 19 年 7 月）」では、県が設定する 5 つの地域政策圏のうち、茅ヶ崎市は、湘南海岸から丹沢に至る相模川下流や境川、引地川、金目川の流域を一体として捉えた「湘南地域圏」に含まれています。
- 「湘南地域圏」では豊かな自然環境や文化の保全・活用を図るとともに、交通ネットワークの整備とあわせた都市機能の向上や、産業拠点の整備・再生を進め、環境と共生し、豊かで活力にあふれた地域づくりをめざし、産学公の交流・連携の促進、地域循環型農業の推進等に取り組むとしています。

#### (2) 都市構造等

- 「かながわ都市マスタープラン・地域別計画」では、茅ヶ崎市が含まれる湘南都市圏域の都市づくりの目標を『山なみをのぞみ、海と川が出会い、歴史を生かし文化を創造する都市づくり』とし、基本方針を以下のように設定しています。

##### 「環境共生」の方針

- 地域ブランドを構築・発揮する魅力ある都市空間の形成
- 海と山の魅力を融合させる土地利用
- 新たな魅力を生み出す山や森林等の保全・活用

##### 「自立と連携」の方針

- 新たなゲート：南のゲート（ツインシティ）
- 広域拠点：藤沢駅周辺、平塚駅周辺、秦野駅周辺
- 地域の拠点：茅ヶ崎駅周辺、辻堂駅周辺、寒川駅周辺、湘南台駅周辺など

#### (3) 交通等の連携軸

- 「かながわ都市マスタープラン・地域別計画」では、連携による機能向上を果たす連携軸を位置づけていますが、そのうち湘南都市圏域で示している軸を以下に整理します。

##### 県土連携軸＜都市圏域間・拠点間の交流連携を促進する連携軸＞

- 相模湾軸：「新湘南バイパス」の整備・東海道貨物線の本格的旅客化
- 相模軸：JR 相模線の複線化
- 横浜県央軸：相鉄いずみ野線の延伸

都市連携軸〈主に都市圏域内の交流を支える軸〉

- 茅ヶ崎寒川軸：茅ヶ崎駅周辺から寒川駅周辺を結ぶ相模湾軸を補完する軸
  - 藤沢大磯軸：藤沢駅周辺から大磯駅周辺を結ぶ相模湾軸を補完する軸 等
- また、「かながわ交通計画(平成 19 年 10 月改定)」においては、以下のことを図るとしています。
- 相模線の複線化
  - 東海道新幹線新駅設置の早期実現
  - 相鉄いずみ野線の延伸
  - 武相幹線（第二東名高速道路）の整備

## **1-4 都市づくりの主要課題**

### **(1) 人口減少・超高齢社会への備え**

- ライフステージやライフスタイルに応じた住まい方ができる快適な住環境の整備
- 今後、空き家の増加が予測されるため、発生予防や利活用など、総合的な空き家対策を実施
- 歩行者、自転車、公共交通を主体とした交通体系の整備（拠点間の移動手段の整備を含む）
- 高齢者や子どもが安全に安心して歩ける環境の整備（ユニバーサルデザイン・バリアフリー化、歩きたくなるまちづくり）
- 公共交通のサービス水準を維持するための取り組みを推進

### **(2) 広域連携・交流のさらなる促進**

- 拠点間のネットワークの充実
- 柳島地区（柳島スポーツ公園や道の駅）と浜見平（生活・防災拠点）との連動・交流・つながり

### **(3) 拠点の活性化（にぎわいの創出）**

- 拠点の各々の特徴を整理し、不足している都市機能の拡充と合わせて、にぎわいを創出する観点で都市づくりを推進

### **(4) 都市空間の質の維持・向上**

- 自然確保、防災、コミュニティ等の視点により、地域に適したオープンスペースの確保とその活用

### **(5) 防災・防犯の強化**

- 被災後の復興に向けた準備の具体化
- 地域防災力の向上
- 都市基盤の長寿命化、強化

### **(6) 厳しさを増す財政状況**

- 既存施設の複合用途化、利活用の推進

### **(7) 民間・地域活力と連携したまちづくり**

- 民間企業、市民、市が各々やれることを考え、役割分担の上でまちづくりを推進

## 2. 全体構想

---

### 2-1 基本理念

- 四季を通じて温暖な気候や海と緑豊かな丘陵等恵まれた自然もあり、明治から昭和初期にかけて湘南の別荘地、保養地として発展してきました。その後、都心部への交通の利便性や恵まれた自然環境もあり、高度経済成長期に一気に住宅都市として発展し、人口も増加してきました。茅ヶ崎市では、これらの背景をもとに「湘南の快適環境都市 ～みんなでつくる 住み続けたいまち ちがさき～」の実現を目指しつつ、約 24 万人の住宅都市へと成長してきました。
- しかしながら、昨今の社会経済状況の全国的な課題として、「人口の減少」、「都市の縮小」、「防災・減災対策」、「少子高齢化による年齢階層別人口の偏り」、「厳しい財政状況」等が挙げられます。本市においても、平成 32 年をピークに人口が減少していくと推計されているとともに、大規模地震の切迫性も危惧されており、今後同様の課題に直面すると考えられます。
- 茅ヶ崎市は都心部まで時間的に遠くない距離にありながら、海や山などの自然環境の中で過ごせる環境とともに、都市機能も比較的充実しています。また、どこか遠くに行かなくても、海や里山などの魅力的な自然環境と、ある程度のお店などが家の近くにあり、気分や目的によって、まちを使いわけることができます。茅ヶ崎市にある自然や文化を個人の生活スタイルで使いわけ、自分らしく生きていけるのがこのまちの特徴です。さらに、繋がりたいときに繋がる、ほど良い、ゆるやかなコミュニティが形成されているのも茅ヶ崎市の特徴です。
- こうした茅ヶ崎市の特徴を踏まえ、都市基盤の面からは、「心地よさ」、「利便性」、「安全・安心」の視点から、必要な都市機能を向上させていきます。また、「環境」、「地域社会」へ配慮しながら、これまで築いてきた「協働のまちづくり」の土台を活かしながら、多世代が共生できる都市づくりを進めていきます。
- そして、茅ヶ崎市では、ライフステージやライフスタイルに応じた住まい方・働き方ができる快適な住環境のあるべき姿を見通し、まちを育みながら、適切な人口規模と人口構成のバランスが取れた「住みたい、住み続けたい」都市を実現していきます。
- 特に子どもを生み育てやすく子育て層が住みやすく、また、高齢者が健康寿命を伸ばし、コミュニティの中で元気に生きがいを持って活躍できるよう、ユニバーサルデザインの視点に配慮し、外出しなくなる「場づくり」と「移動環境づくり」を進めていきます。

## 2-2 目標とする都市（将来都市像、将来のまちの姿）

### 《将来都市像》

- 将来の都市像として、『多世代が共生できる住みたい、住み続けたいまち』～みんなで育む やすらぎとにぎわいのあるまち～をめざします。
- 将来都市像の実現にあたっては「多様な個性と自然と文化が共生する都市づくり」「地域や経済の活力が「茅ヶ崎」の魅力を育む活きた都市づくり」「安全・安心、快適、便利な市民生活が実現できる都市づくり」を市民・事業者・行政の連携のもと展開します。

### 《めざすべき方向》

#### ○多様な個性と自然と文化が共生する都市づくり

～様々なライフスタイルを支える まちの資源の質を向上（海岸・河川、市街地、丘陵、農地など）～

- 茅ヶ崎にある自然や文化を個人のライフスタイルで使いわけ、自分らしく生きていけるのが茅ヶ崎と言えます。
- 市民が日々の生活で茅ヶ崎に抱いている印象や魅力から、茅ヶ崎のまちの個性を捉え直し、みんなでまちの資源の質の向上を図り、魅力的な都市づくりをめざします。

#### ○地域や経済の活力が「茅ヶ崎」の魅力を育む活きた都市づくり

～地域経済を支える 都市基盤の質を向上～

- 市民が自分らしく生きていける環境づくりとともに、良好な住環境を保全しつつ、広域的な交通ポテンシャルの向上や道の駅整備などを契機と捉え、豊かな自然環境、歴史・文化資源を活用し、茅ヶ崎市の魅力を積極的に発信していきます。あわせて、市民や市外からの来訪者の消費活動が活発化するよう都市づくりを進めていきます。
- また、地域や経済の活力が「茅ヶ崎」の魅力を育む活きた都市づくりを進めていくことで、市民がまちの資源を再発見し、その質を向上させていこうとする機運やまちに対する愛着の醸成にもつながると考えられます。

#### ○安全・安心、快適、便利な市民生活が実現できる都市づくり

～都市機能の質を高め、暮らしの質を向上～

- 地震・水害等の災害対策、防犯対策の強化等、安全・安心の確保、快適な生活環境など、多様なニーズに対応できる都市機能を進めていきます。
- ライフステージやライフスタイルに応じた住まい方ができる住環境をつくっていくためには、「安全・安心、快適、便利」な都市形成が、市民生活を考える上での必須条件となります。
- 特に超高齢社会に対応するため、多くの高齢者が地域において活動的に暮らせるとともに、助けが必要な高齢者に対しては、「地域包括ケアシステム」とまちづくりとの連携等により、地域全体で生活を支えることができ

る社会の構築が必要です。このような社会の実現に向け、日々の暮らしにおける「まちを歩くこと」、「コミュニティ活動（子育てのサポート、高齢者世帯間の見守り、防災力の向上等）」といった生活活動に着目し、これらの活動を高めるための都市づくりを進めていきます。

- また、生活の質を高め、健康づくりを支えるためのインフラとして公共交通網の確保とともに、歩行環境、自転車走行環境の整備を進めていきます（徒歩や自転車で暮らせる都市づくりの推進）。